

1

「東アジアの歴史をめぐる越境的対話」

龍谷大学社会科学研究所付属

安重根東洋平和研究センター 定例研究会

◆プログラム◆

1) 「朝鮮通信使のユネスコ世界記憶遺墨登録申請と関連文化財」 仲尾宏先生

プロフィール：(なかお・ひろし) 1936年京都府生れ。京都造形芸大歴史遺産学科客員教授、ユネスコ登録申請日本学術委員長。主な著書に『朝鮮通信使—江戸日本の誠信外交』(岩波書店)、『京都の渡来文化』(淡交社)、『朝鮮通信使—江戸日本への善隣使節』(NHK出版)、『朝鮮通信使の足跡—日朝関係史論—』(明石書店)がある。

報告概略：2017年秋ごろに申請の結果が公表される「朝鮮通信使関連資料」のユネスコ世界記憶遺産の申請作業を通じて日韓の関連文化財の現況と今後の課題を考える。

2) 「伊藤博文と安重根の息子たちの和解劇」 水野直樹先生

プロフィール：(みずの・なおき) 1950年京都市生れ。京都大学名誉教授、立命館大学客員教授。朝鮮近代史、東アジア関係史。主な著書に『創氏改名—日本の朝鮮支配の中で—』(岩波新書)ほか。関連論文として、「植民地期朝鮮における伊藤博文の記憶」(伊藤之雄・李盛煥編著『伊藤博文と韓国統治』ミネルヴァ書房、2009年)、「「博文寺の和解劇」と後日談—伊藤博文、安重根の息子たちの「和解劇」・覚え書き—」(『人文学報』第101号、2011年)がある。

報告概略：植民地支配下の京城(現・ソウル)に伊藤博文の菩提寺として博文寺が創建されたのは1932年。それから7年後の1939年10月、ハルビン事件から30年目に、伊藤の息子伊藤文吉と安重根の息子安俊生がそろって博文寺を訪れ、「和解」の言葉を交わした。「和解劇」の真相は何だったかを考える。

日時：2017年9月26日(火) 18:00~21:00

場所：龍谷大学(深草学舎) 京都産業人倶楽部(8号館2階)

主催：龍谷大学社会科学研究所付属安重根東洋平和研究センター
連絡先：李洙任研究室 (eメールアドレス；lee@biz.ryukoku.ac.jp)